弥陀ヶ原の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

地獄谷周辺の地震活動は低調で、火山活動によるとみられる膨張を示唆する地殻変動も認められませんが、地獄谷では熱活動が引き続き活発な状態で推移しています。
地獄谷付近では火山ガスに注意が必要です。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１、図２、図４－①）

芦峅（あしくら）監視カメラ（弥陀ヶ原の西約 18km）による観測では、地獄谷からの噴気の高さは 50m以下で経過しました。

６日から９日にかけて現地調査を実施しました。地獄谷では紺屋地獄や百姓地獄などで引き続き活発な噴気活動がみられました。赤外熱映像装置による観測では、噴気地帯に対応する高温領域が引き続き確認され、2024 年と比較してその分布に大きな変化はありませんでした。

・地震や微動の発生状況（図３、図４－②）

今期間、地獄谷周辺の地震活動は、低調に経過しました。

なお、28 日から 29 日にかけて地獄谷の南３～４km 付近を震源とする地震が一時的に増加しました。この地震活動の前後で、弥陀ヶ原の想定火口域付近浅部での地震活動や噴気活動に特段の変化は認められていません。また、震度１以上を観測した地震はありませんでした。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図４－③～⑥、図５）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧できます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年 11 月分）は令和８年 12 月８日に発表する予定です。
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『基盤地図情報』『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。



図１　弥陀ヶ原　地獄谷からの噴気の状況（10 月 10 日、芦峅監視カメラによる）

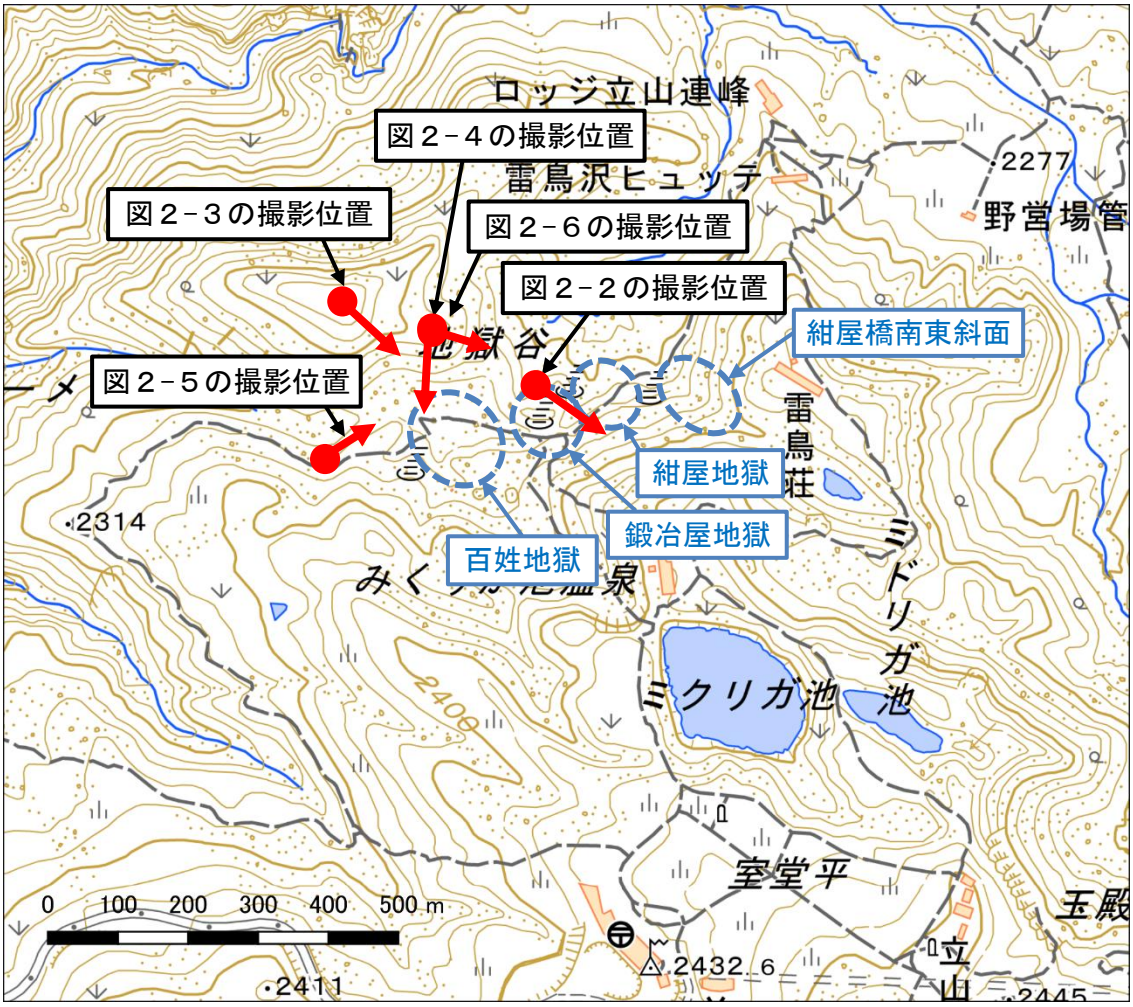
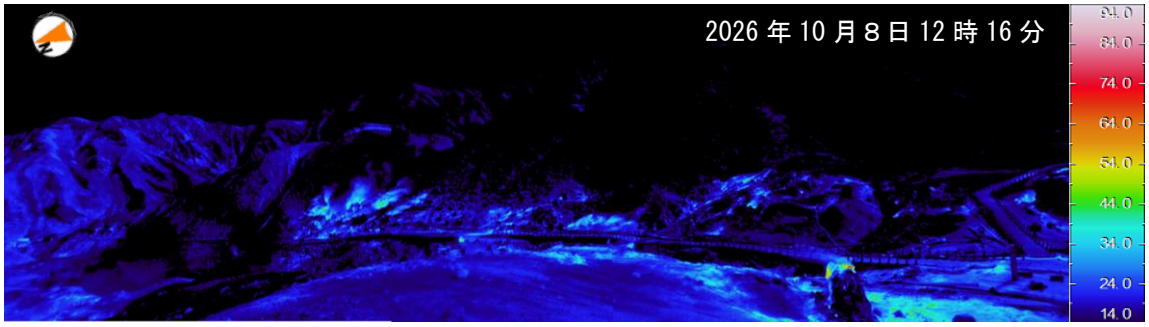


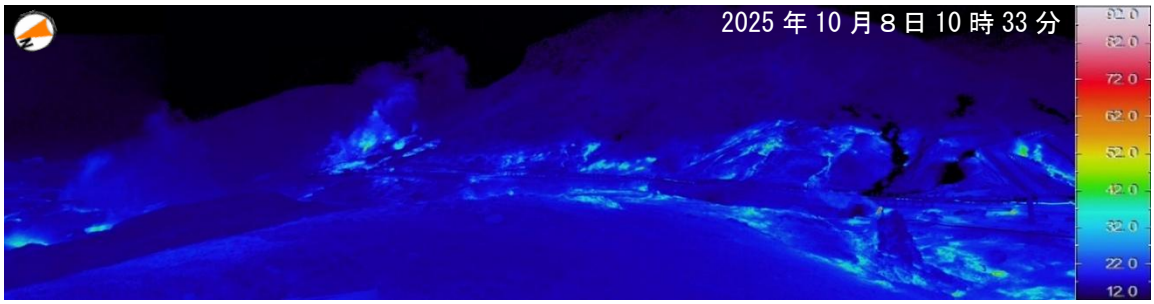
図２－１　弥陀ヶ原　目視・熱観測の撮影位置
撮影位置及び撮影方向を赤矢印で示しています。





2026 年 10 月８日　（天気：快晴、気温：9.7℃、湿度：80%）



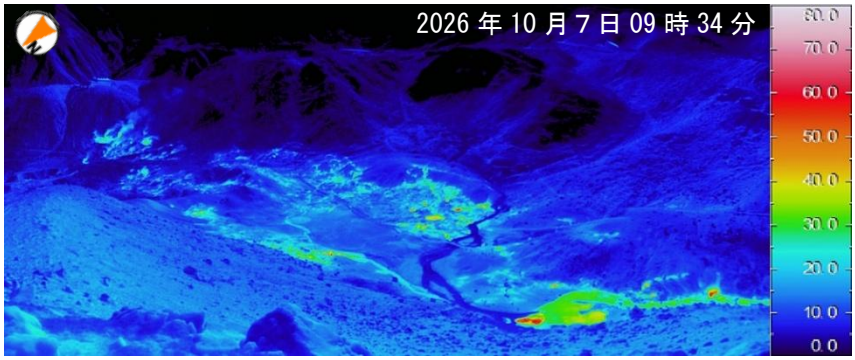


2025 年 10 月８日　（天気：曇り、気温：11.7℃、湿度：98%）

図２－２　弥陀ヶ原　地獄谷（紺屋地獄から鍛冶屋地獄）の状況

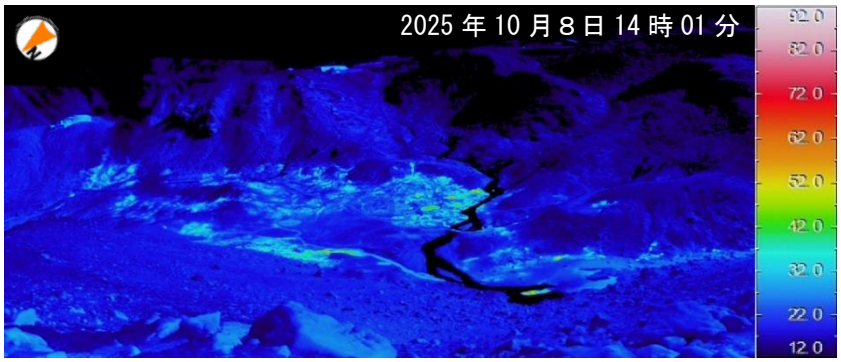
・前回（2025 年 10 月）の観測結果と比較して、高温領域の分布に目立った変化は認められませんでした。





2026 年 10 月７日　（天気：晴れ、気温：8.4℃、湿度：65%）





2025 年 10 月８日　（天気：晴れ、気温：16.0℃、湿度：88%）

図２－３　弥陀ヶ原　地獄谷（紺屋橋南東斜面から百姓地獄）の状況

・前回（2025 年 10 月）の観測結果と比較して、高温領域の分布に目立った変化は認められませんでした。



図２－４　弥陀ヶ原　地獄谷（紺屋橋南東斜面）の状況

・７日に実施した現地調査では、紺屋地獄で地熱域と高さ約 50ｍの噴気を確認しました。



図２－５　弥陀ヶ原　地獄谷（鍛冶屋地獄）の状況

・７日に実施した現地調査では、鍛冶屋地獄で地熱域と高さ約５ｍの噴気を確認しました。



図２－６　弥陀ヶ原　地獄谷（百姓地獄）の状況

・７日に実施した現地調査では、百姓地獄で地熱域と高さ約 20ｍの噴気を確認しました。

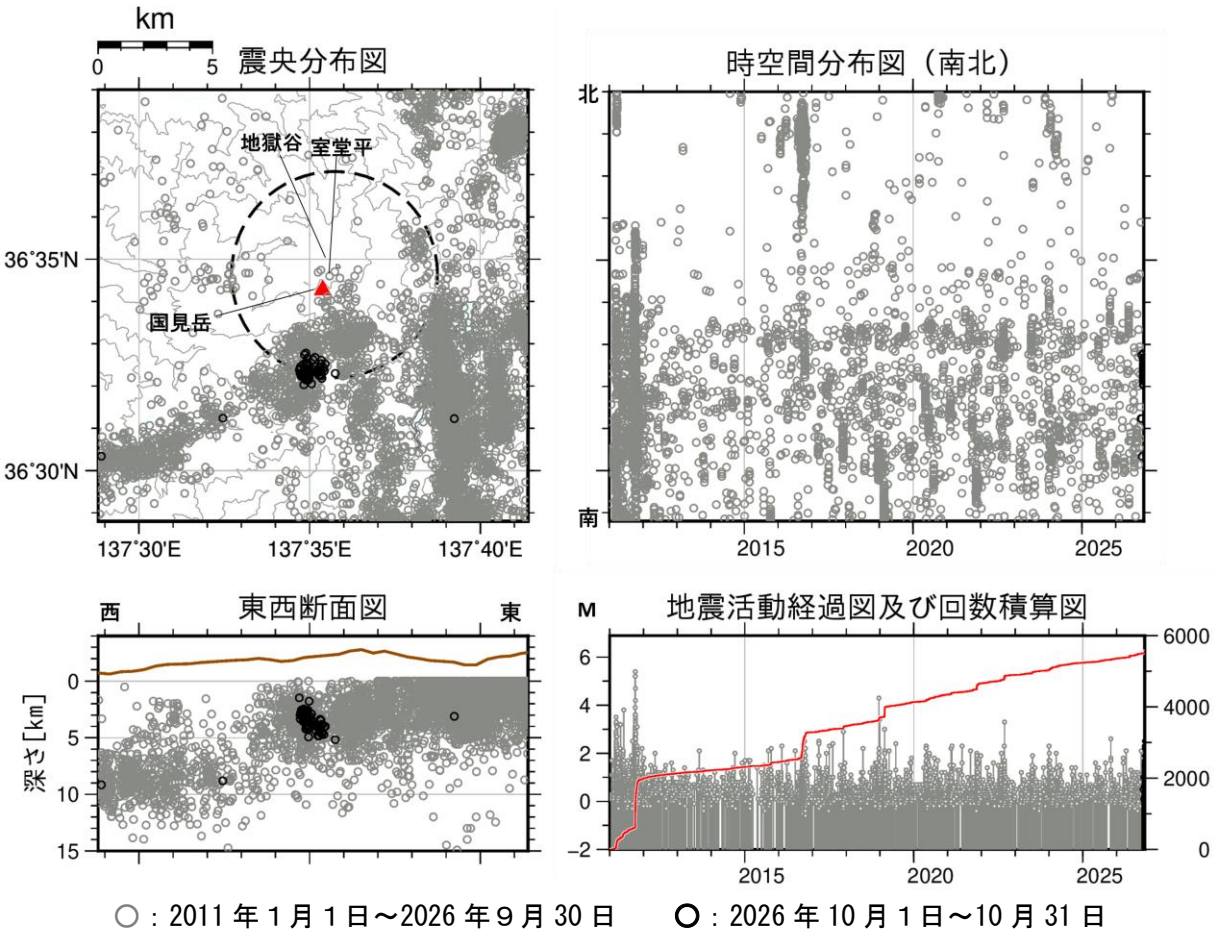


図３　弥陀ヶ原　広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011 年１月１日～2026 年 10 月 31 日）
震央分布図中の円は弥陀ヶ原の計数対象地震（室堂平で S-P 時間１秒以内）のおよその範囲を示しています。
広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。なお、2020 年９月以降については、地震観測点の標高を考慮する等、震源決定の手法を変更しています。
図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

・今期間、地獄谷周辺で震源の求まった地震はありませんでした。
・28 日から 29 日にかけて地獄谷の南３～４km 付近を震源とする地震が一時的に増加しました。この地震活動の前後で、弥陀ヶ原の想定火口域付近浅部での地震活動や噴気活動に特段の変化は認められていません。また、震度１以上を観測した地震はありませんでした。

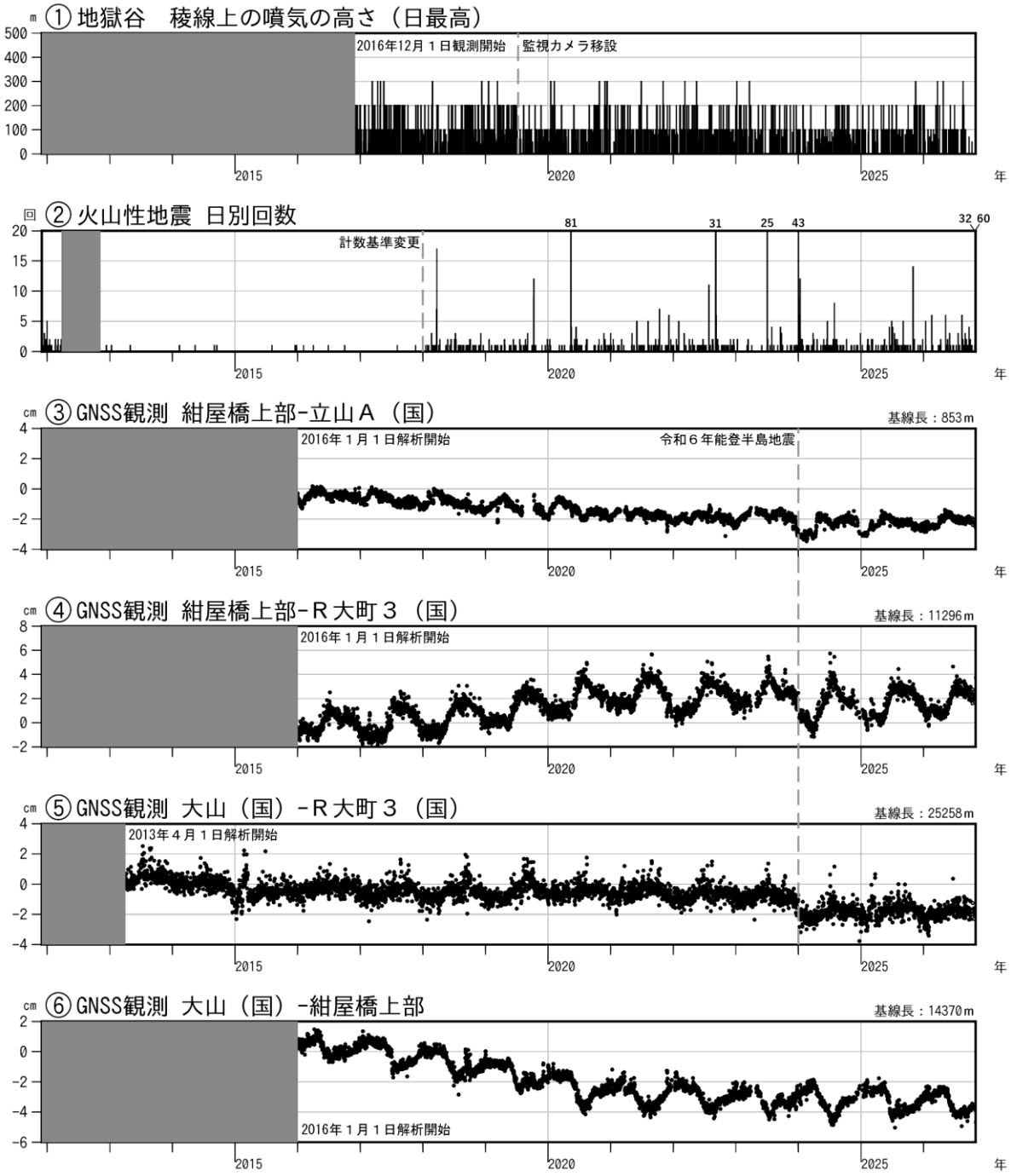


図４　弥陀ヶ原　火山活動経過図（2011 年 12 月１日～2026 年 10 月 31 日）

（国）：国土地理院。灰色部分は観測・解析開始以前または機器障害等による欠測を示しています。

【噴気の高さ】2019 年７月 10 日まで：瀬戸蔵山西監視カメラによる
2019 年７月 11 日から：芦峅監視カメラによる

【火山性地震の計数基準】2017 年 12 月まで：　立山室堂２の上下動成分で最大振幅 40μm/s 以上、S-P 時間 1.0 秒以内
2018 年１月から：　室堂平の上下動成分で最大振幅１μm/s 以上、S-P 時間 1.0 秒以内

・地獄谷からの噴気の高さは 50m以下で経過しました（①）。
・今期間、地獄谷周辺の地震活動は、低調に経過しました。2018 年１月の計数基準変更以降、時々地震回数の急増が見られますが、いずれも地獄谷から離れた場所で発生した地震によるものです（②）。今期間の地震の発生場所は、図３を参照してください。
・GNSS 観測では、火山活動によるとみられる膨張を示唆する変動は認められませんでした。また、令和６年能登半島地震によると考えられる変動がみられます（③～⑤）。

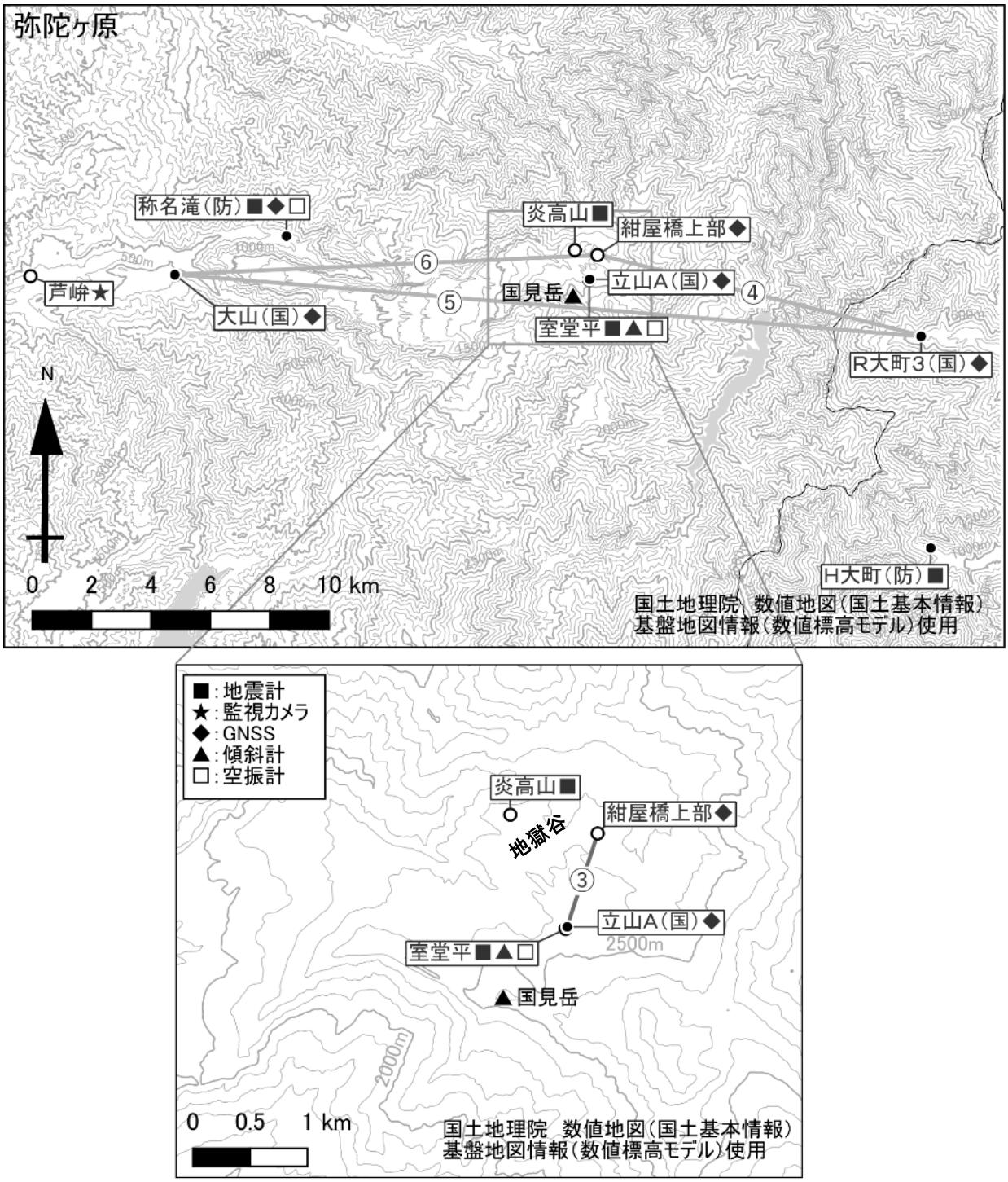


図５　弥陀ヶ原　観測点配置図

（国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所。小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。図中の GNSS 基線③～⑥は図４の③～⑥にそれぞれ対応しています。